

平成29年度石教研国語(小)部会

研究ガイド

平成29年5月発行 編集・文責：部会研究員 岩崎 晋也(泉沢小)

今年度も国語(小)部会の研究が始まりました。今年度より研究員が岩崎に変更になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度から、研究教材が説明的文章になりました。さらに、部会員の皆様からいただいた声を参考に、「子どもたちにつけたい力」(＝「表現のスキル」)と力をつけるための「手立て」にテーマを絞って授業づくりを進めて行くことになりました。指導案の形式については、研究主題にもある、目の前の子ども達に「総合的な国語の力」をつけるための指導計画作成と、子どもの実態と「つけたい力」に応じて、教材の特性を生かした「手立て」を講じるという点で、昨年度までと同じですので、全体としては大きな変更はありません。

(参考)

平成29年度の研究について

I 研究主題

「多様な手立てによる『総合的な国語の力』の育成」

～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用をめざして～

II 研究仮説

説明的文章の指導において、「表現のスキル」の習得と活用をめざし、多様な手立てを工夫することによって、各領域を横断する「総合的な国語の力」を育むことができるだろう。

III 研究領域

「読むこと」領域における「説明的文章」教材

IV 研究の柱

- (1) 「読む力」を身に付けさせるために、「表現のスキル」に基づいて、説明的文章を効率的に正しく読み取るための手立ての工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (2) 身に付けた「表現のスキル」を自分の表現(話すこと・書くこと)に活かすための手立て(＝「言語活動」)の工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (3) 「説明的文章教材の『表現のスキル』系統表」の妥当性の検証

V 研究方法

- (1) 平成28、29年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。
- (4) 「『表現のスキル』系統表」については、HPに掲載した上で、その妥当性については、部会内外からの意見を随時受け付けるとともに、石教研第二次研究協議会の分科会討議およびアンケートで、部会員からの意見を集め、2カ年を通じてより適切な内容に発展させる。

1. 指導案の統一形式

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

第〇学年 国語科学習指導案

日 時 2017年〇月〇日 () 〇校時
 児 童 〇〇市立〇〇小学校 〇年〇組
 男子〇名 女子〇名 計〇名
 指導者 〇 〇 〇 〇

1, 単元名「〇〇〇〇」 教材名「〇 〇 〇 〇」

2, 教材について

- (1) 筆者について
- (2) 単元について (「言語活動」「教材について」など)
- (3) 文章の特色 (「特色について」「要旨について」など)

「言語活動」
 …この単元で、どのような言語活動を取り入れるのか。
 「特色について」
 …この文章がどのような文章構成であるのか。
 「要旨について」
 …文章が、どのような内容なのか。

3, 国語科に関わる児童の実態

- ・「話すこと・聞くこと」
- ・「書くこと」
- ・「読むこと」
- ・「言語事項」

4, 本単元で身につけさせたい力 (表現のスキル) **と手立て**

身につけさせたい表現のスキルと、そのためにどんな手立てをとるのかを記入してください。

「はまなすNo.1」P10「表現のスキル系統表」を参照して記入して下さい。

5, 単元の目標

6, 指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	単元のとびらや「てびき」のリード文を読み、学習の見通しを持つ。	1. 推薦とはどういう意味なのか、児童の印象を発表させる。 2. 推薦したいことは何かを考えながら、推

7, 本時の目標

8, 本時の展開 (導入 → 展開 → まとめ)

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入		※主発問を記載する。	

9, 板書計画

10, 本時で特に取り上げるべき語句 (必要に応じて)

11, 資料～ワークシートなど

表現のスキルを身に付けさせるための手立てを、児童の活動の中に入れて、わかりやすく枠で囲んでください。

2. 指導案例

※上記の形式を踏まえ、ここでは、6年生の指導案を例として示します。

第6学年 国語科学習指導案

日 時 2017年〇月〇日 () 〇校時
児 童 〇〇市立〇〇小学校 6年〇組
男子〇名 女子〇名 計〇名
指導者 〇 〇 〇 〇

1, 単元名「伝えたいことをすいせん文にまとめよう」

教材名「森林のはたらきと健康」

2, 教材の特色

(1) 筆者について

矢田貝 光克 (やたがい みつよし)

1943年、栃木県に生まれる。東北大学地学部科学科卒業後、同大学院理学部研究科博士課程を経て、アメリカのバージニア大学、メイン大学に留学。その間、植物が出す生理活性物資の研究に携わる。(以下省略)

(2) 単元について

・言語活動

推薦文を書くために、『森林のはたらきと健康』をさまざまな観点から読む活動に取り組む。推薦文は、児童が初めて出会う文種である。「推薦」とは何か、推薦文を書くためにどのように読み進めればよいのかななどを学ばせたい。

(以下省略)

・教材について

『森林のはたらきと健康』の前半部は、冒頭段落で示された問いに答える形で解説が進められる。各段落の冒頭の文が中心文になっていることに気づけば、効率よく、「森林のはたらき」の情報を読み取っていくことができる。(以下省略)

(3) 文章の特色

・特色について

全体で19段落。6つの段落から成る尾括型の文章である。

大きく二つの部分から構成されている。すなわち、古くから知られている健康に役立つ森林のはたらき(第(2)段落)と、研究が進んだ結果、わかってきたもう一つのはたらき、においについて(第(4)段落)である。(以下省略)

・要旨について

森林は、静けさと穏やかな緑が、心身に安らぎと落ち着きを与えてくれたり、暑さを和らげたり、空気をきれいにしたり、新鮮な酸素を放出したりするなど、健康に役立つはたらきをすることが、古くから知られていた。また、森林のにおいは、細菌が増えるのを防ぐはたらきがあることも昔から知られ、日常生活に利用されてきた。(以下省略)

3, 国語科に関わる児童の実態

※ (ここでは、記入して欲しい簡単なポイントの例示をします)

※ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」に分け記述してください。

※ 「読むこと」については、特に詳しく述べてください。

- ・現状と課題
- ・今年度、児童に身につけさせたい力
- ・現在の取り組みと今後の見通し など

4, 本単元で身につけさせたい力 (表現のスキル) **と手立て**

根拠と裏付け

- ・推薦文を書くという目的に応じて、文章の内容を的確におさえて要旨を捉え、感心したことや納得したこと、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。→**手立て**各授業時間の振り返りで筆者へのメッセージを書きため、**推薦文に自分の考えを書くことができるようにする。**
- ・事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。→**手立て**筆者の主張するいくつかの「森林のはたらき」に対して納得度(点数化)を取り入れ、納得度の高い「森林のはたらき」の文章構成に着目させて推薦文を書く。

5, 単元の目標

説明の仕方などさまざまな観点から文章を読み、感心したことや納得したことをはっきりさせて推薦文にまとめる。

6, 指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	単元のとびらや「てびき」のリード文を読み、学習の見通しを持つ。	1. 推薦とはどういう意味なのか、児童の印象を発表させる。 2. 推薦したいことは何かを考えながら、推

7, 本時の目標

(省略)

8, 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	手立て	※主発問を中心に記載する。	

9, 板書計画 (省略)

10, 本時で特に取り上げるべき語句 (省略)

11, 資料～ワークシートなど (省略)

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。

【文責：研究員 岩崎 晋也(泉沢小)】